

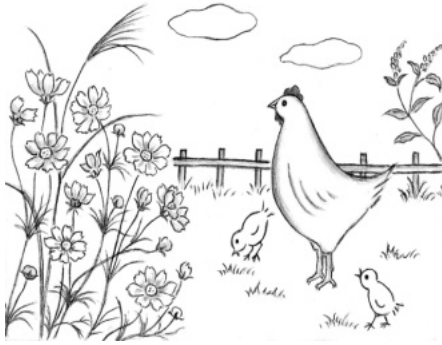
●三位一体後第十六主日

泉のほとり

今月の詩編「第三十五編」

わたしの魂は主によつて喜び躍り

御救いを喜び樂しみます。



世があなたがたを憎むなら

人は内側にある怒り、憎しみ、妬み、姦淫、偽りなどを真正面に取り組むことはなく、表向きだけ敬虔な姿をしていながら、律法を守っているとしていたのです。人のねじれた心は「目には目、歯には歯」を、隣人を自分のように愛する戒めと受け止めず、隣人への復讐の正当な根拠としたのです。安息日に穴に落ちた自分の羊は引き上げながらも、人を病から助けるのは禁じ、安息日に生まれつきの盲人の目を開けた主イエスを殺そうとしたのです。

朝から姦淫を犯したということで、一人の女を連れてきて「モーセはこのような人を石で打ち殺せと命じている。あなたはどう言うのか」と言いました。「石で打ち殺せ」と言われれば殺し、「殺すな」と言われれば、神の律法ではなくローマの法に従う者とし、退けようとしたのです。朝から蛇のような狡賢さに、陰湿なことを企み、彼らの罪深さに主はことばを失うようなご様子でした。

主は民に「アブラハムの子孫であるなら、アブラハムの業をするはずだ。あなたがたは悪魔の子たち。悪魔ははじめから偽りものである」とお告げになったのです。外側だけ神を敬う偽りものだったからです。

主の弟子たちはこれまで世の偽りをあらわにし、警告しておられるその一部始終を見聞きしてきました。それに伴う主の教えを受け、彼ら自身も世の偽りを見分けられるほどその心が「きよく」なっていたのです。主はその弟子たちのこれからの歩みを予告して言われました。「あなたがたが世に属していたなら、世はあなたがたを身内として愛したはずである。あなたがたは世に属していない。わたしが選び出した。だから、世はあなたがたを憎む」と。これまで主が受けられたあらゆる非難、企み、陰謀を見てきた弟子たちです。それが彼らをも待ち受けているとのことでした。

ところで、主は「わたしが来て彼らに話さなかったなら、彼らに罪はなかった。だが、今、彼らは自分の罪について弁解の余地がない」と語られました。迫害する人たちに對し、「弁解の余地がない」と。迫害、苦難、十字架と死ですべて

が終わりだったら、それほど不幸なことはいりません。しかし、この後、弟子たちは、主が「復活」され、神の右の座に着かれるのを見るのです。

主の戒めを愛し、守る弟子たち、主の御名のために迫害さえ受ける弟子たちが受ける報いは、復活であり、永遠のいのちではなくなんでしょう。しかし、世は自分たちの罪の報いを受けなければなりません。「弁解の余地がない」と告げられる人たちは、取り返しのない厳しい裁きが待ち受けているのです。

主は「それは、『人々は理由もなく、わたしを憎んだ』と、彼らの律法に書いてあることが実現するためである」とも教えられました。主がこの地上に来られる前に既に、キリストを「理由もなく、憎む」との預言が語られていました。神は御子をこの世にお遣わしになり、御子はご自分を待ち受けることがなんであるかをご存知でした。その只中に来られ、その只中を歩き抜かれたのです。「理由もなく憎む」との預言が示す人間の闇の現実はいくらも変わることはなく、弟子たちを待ち受けているのです。そして、記憶したいのです。キリストを理由もなく憎む、人の本質は、その闇は今も変わっていません。「あなたがたが世に属していたなら、世はあなたがたを身内として愛したはずである」、「あなたがたは世に属していない。世はあなたがたを憎むのである」と語られたのです。

キリスト者は世を愛し、世に愛されるために生きるものではなく、世の偽り、偽善の業を憎む者たちです。わが主の十字架による神の真実の業を知っているからです。もはやあらゆる偽善を脱ぎ捨て、世の偽りへは再び戻ることはできない。その信仰に生きるために召されたのです。

御心を行い、理由なく憎まれることがあっても気を落とす必要はありません。世を愛さず、世に属してなければ、それは必ず起ることと見るべきです。怯んではならず、むしろそれは神の者、キリストに忠実であることが認められていることです。その者が受ける報いは復活と永遠のいのちでなくなんでしょう。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

- 礼拝後、カナルルームで定例役員会を行います。
- 次回の洗礼式と転入会式は二月二日のクリスマス礼拝です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、一〇月六日までに牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

《ぶどうの会より》

礼拝後、第二・三シオンルームでぶどうの会を行います。

《運営委員会より》

この夏、多くの皆様が参加された夏季バイブルスクールに關し、受けた恵について発表の機会を設けます。皆様からのご応募をお待ちしております。

- 日時 十月十三日(日) 礼拝後の「交わりの会」の中で行います。

○ 発表内容等 七月三十日からの「創世記のはじめを語る、その後」、八月五日からの「聖書の翻訳について」、八月一二日の「ヨハネの手紙一・二・三(通読会)」の何れかに参加された方で、参加して受けた恵やその後の信仰生活が変わったこと等、お一人五分程度で自由に発表してください。

《教育奉仕委員会より》

一月二日(土)湘南基督教墓苑で墓苑礼拝を行います。今年は事前に参加者を募ります。教会から現地までバスをご利用の方が多数の場合、バスを手配する予定です。バスの費用は、お一人につき六〇〇〇円です。参加をご希望の方は(自家用車、公共交通機関をご利用の方も)九月二九日(日)までにスタッフの宮間兄までお知らせください。宜しく願います。

《シオンの会より》

九月一八日(水) 一〇時三〇分〜一二時 シオンの会を第二・三シオンルームで行います。

(オンラインも併用します)

テキスト 「聖書が教える世界とわたしたち」P.131-132
◆救いの実現 (二八) 弟子の召命 十字架を負って従うから読みます。参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《ルツの会より》

次週二二日の礼拝後、公開ルツの会を行います。出エジプト記三〜四章、モーセの召命から学びます。聖書、讚美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《ジュネーブ教会信仰問答》

第十四聖日

使徒信条「われは聖霊を信ず」に関して

問八八 第三の部分に進みましょう。

答 それは、聖霊を信ず、であります。

問八九 われわれにとって、その信仰は何に役立ちますか。

答 神はイエス・キリストにおいて、われわれを贖い救われたように、その聖霊によって、われわれをこの贖罪と救いにあずからせてくださることを、われわれが認識することに役立ちます。

問九〇 それほどのようにしてですか。

答 イエス・キリストの血がわれわれを洗い潔めるように、聖霊がそれをわれわれの心に注いで、心が洗われるようにする必要があるのであります。

問九一 もっと明確な説明が必要です。

答 われわれの心の中にいます聖霊は、主イエスのみ力をわれわれに感じさせます。なぜならば、聖霊はわれわれを照らして、主のもろもろの恵みを知らせ、これをわれわれの魂に封印し刻みつけて、これらをわれわれの内に住ませるからであります。彼はわれわれを再生させ、新たな被造物にし、かくしてわれわれは、イエス・キリストにおいてわれわれに贈られているすべての宝と賜物とを、聖霊によって受けるのであります。

(参照)一ペテ一・一八、一九。ローマ五・五。エフェ一・一三。テト三・五。

外山八郎訳(新教出版社1979年)使用



《今日の子ども礼拝》

説教 「わたしは主、あなたの神」

聖書 出エジプト19章3〜6節、

20章1〜3節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「神の前に立つモーセ」

聖書 出エジプト32章1〜14節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

●主日礼拝(午前10時30分)

讃美歌 334番 185番

説教 「真理の霊が悟らせること」

聖書 ヨハネ16章1〜17節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 31番 336番
説教 「主の恵みを味わいながら」
聖書 Iペトロ2章1～4a節(新約P.429)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 吉村和雄 名誉牧師

前奏曲「我が主のみわざはことごと正し」J.S.バッハ

○讃美歌31番

1. わがみかみよ ひるもよるも
いえにも たびにも 主とともにならん
2. あさ日てりゆて 世のつとめ
いでゆくときにも 主とともにならん
3. 市びとらの さわぐなかに
みこえをききつつ 主とともにならん
4. きょうのつとめ はてしゆうべ
しづかにいこいて 主とともにならん
5. たまきのごと めぐりくる日
たえせずいのりて 主とともにならん

アーメン

○聖歌隊による讃美

「主の御名の御稜威(みいつ)」 T.Fettke 曲

主の指の技なる 月星を見上げ

主の御心を想う

人は何者ゆえ顧みられる？

少し神より人を低く作り

栄えと誉れ与え

すべての作られしもの

その足の下に置かれ

何者ゆえ人を顧みたもうや

主の御名の御稜威(みいつ)と栄光は
地を越え 天に満ちる
御神を 幼子たえ歌う
我らも共に歌わん
ハレルヤ ハレルヤ
主の御名の御稜威、栄光
ハレルヤ ハレルヤ
主の御名の御稜威、栄光
ハレルヤ ハレルヤ (繰り返し)

○讃美歌336番

1. 主イエスよ、十字架を み手より受けて
われは世のほまれ むなしき望み
棄つとも惜しまじ ただ主によりて
みかみの国をば 得るぞうれしき
2. わが身のたのしみ わがもつたから
ことごとこの世は うばい去るとも
われはかなしまじ ただ主によりて
みかみの富をば うるぞうれしき
3. われはめぐみより さかえにすすみ
のぞみはまことに いのりはうたに
やがてかわりゆかん ただ主によりて
みかみの愛をば うるぞうれしき

アーメン

聖餐曲「オルガン交響曲第4番より」(アダージョ)

C.M.ガートル

後奏曲「うるわしきは神のみとの」V.ウイリアムズ

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。